

私が景観という言葉に接したのは、まちのよそおいネットワークが「手作り景観賞」なる活動をしているのを手伝い始めてからのことだと思います。

景観アドバイザーという肩書きをいただいているのですが、「景観とは」と聞かれたときに、さてどのように答えて良いのか判らないのも困ったものです。

G・エクボの「景観論」の中に出てくる、芸術、科学ということから私なりに考えると、芸術は自然に近いところにあり、科学はその合理性や生産性をもって自然に対峙してきたと思います。

科学技術の発達により、人間は快適な生活ができるようになったともいえますが、それによって失ったものが自然であり、こちよ景観ということになるのでしょうか。

民主主義の考え方により、それまでの君主、神の名の基にというかわりに、科学的な合理性が多数原理によって、経済を優先するあまり環境、景観を破壊しています。

結果的に封建的な規制が現在残っている伝建地区を形成してきたと考えると、今後の都市計画の合意を得る方法について、もう少し勉強しなくてはいけないと思います。

助手席の娘が「わぁー！！きれい」と言ってくれるような街並みを創るためには景観の経済性について、もう少し科学しないといけないのでしょうか。

といいながら、排気ガスをまき散らす自動車に彼女を乗せて走っているのじゃ、結局景観を壊している方に廻っているのかな。